令和８年度　数学１学年　年間指導計画と観点別評価規準

学年目標

(1) 正の数と負の数，文字を用いた式と一元一次方程式，平面図形と空間図形，比例と反比例，データの分布と確率などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに，事象を数理的に捉えたり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲を拡張し，数の性質や計算について考察したり，文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりする力，図形の構成要素や構成の仕方に着目し，図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察する力，数量の変化や対応に着目して関数関係を見いだし，その特徴を表，式，グラフなどで考察する力，データの分布に着目し，その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり，不確定な事象の起こりやすさについて考察したりする力を養う。

(3) 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え，数学を生活や学習に生かそうとする態度，問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度，多面的に捉え考えようとする態度を養う。

学期	月	単元（指導時間）	内容のまとまり	観点別評価規準			主な評価方法
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
一学期	4~9	正の数と負の数（27 時間） 文字と式（22 時間） １次方程式（17時間）	数と式	正の数と負の数，文字と式，方程式などの必要性と意味，表し方，読み取り方を理解し，その四則計算や具体的な場面での表現と処理，簡単な一元一次方程式を解くことができる。	正の数と負の数の四則計算や一次式の加法と減法の計算，一次方程式を解く方法を考察し表現することができ，それらを具体的な場面で活用することができる。	正の数と負の数，文字を用いること，一元一次方程式よさに気付いて粘り強く考え，それらついて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，それらを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。	ノート記述，定期考査，小テスト，振り返りシート等
二学期	9~11	比例と反比例（22 時間）	関数	関数関係，比例，反比例，座標の意味を理解し，比例，反比例を表，式，グラフなどに表すことができる。	比例，反比例として捉えられる二つの数量について，表，式，グラフなどを用いて調べ，それらの変化や対応の特徴を見いだすことができ、それらを用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	比例，反比例のよさに気付いて粘り強く考え，比例，反比例について学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，比例，反比例を活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。	ノート記述，定期考査，振り返りシート等
	11~1	平面図形（17 時間） 空間図形（22 時間）	図形	基本的な作図の方法，平行移動，対称移動，回転移動，空間における直線や平面の位置関係について理解し，扇形の弧の長さと面積，基本的な柱体や錐体，球の表面積と体積を求めることができる。	基本的な作図の方法，移動する二つの図形の関係，立体図形の表面積や体積の求め方を考察し表現することができ，それらを具体的な場面で活用することができる。	平面図形，空間図形の性質や関係を捉えることのよさに気付いて粘り強く考え，それらについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，それらを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたりしている。	ノート記述，定期考査，振り返りシート等
三学期	1~3	データの活用（13 時間）	データの活用	ヒストグラムや相対度数，多数の観察や多数回の試行によって得られる確率などの必要性と意味を理解し，コンピュータなどの情報手段を用いるなどしてデータを表やグラフに整理することができる	目的に応じてデータを収集して分析し，そのデータの分布の傾向を読み取り，批判的に考察し判断することや，多数の観察や多数回の試行の結果を基にして，不確定な事象の起こりやすさの傾向を読み取り表現することができる。	ヒストグラムや相対度数，多数の観察や多数回の試行によって得られる確率などのよさに気付いて粘り強く考え，データの分布や不確定な事象の起こりやすさにについて学んだことを生活や学習に生かそうとしたり，それらを活用した問題解決の過程を振り返って検討しようとしたり，多面的に捉え考えようとしたりしている。	ノート記述，定期考査，振り返りシート等
年間授業時数			１４０時間				